

静岡県教育長賞

「聴くこと」こそ心のワクワクチン

浜松市立入野小学校 六年

高柳 翔



「じっくりと人の話を聴くこと」それこそが、僕が考える心のワクワクチンだ。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、三度目の夏。僕が、三年生のとき、緊急事態宣言が発令され、突如学校へ行くことができなくなった。僕は、学校へ行きたくて仕方がなかった。なぜなら、友達と会って話せないからだ。何を話しているというわけではない。日常のちょっとしたこと。昨日家での弟のこと、クラスの友達とのこと。休み時間のことなど。そうした日

常がとても大切だということに、失ってみて初めて気が付いた。それまでは、自分の話を聴いてもらったり、友達の話聴いたりすることに特別な感覚はなかった。しかし、長い時間を家で過ごし、友達とも全く会えず、話をしたい、聴きたいと強く感じていた自分に気が付いた。聴いてもらうことも聴くことも僕を元気にしているのだ。まさにワクワクチン。

また、学校が再開し、通うようになってからもこれまでとは、全く違った。一番はやはり、マスクを常に着用しているというこ

とだ。そうすると、相手の表情がうかがいにくく、気持ちが悪く感じとれない。それを解決するためにも、お互いの想いをじっくり聴き合うことが重要であると感ずるようになった。目からも読み取れることは多少あるが、十分とは言えない。これまでより更に聴くことが重要になった。

加えて、消毒をする、ソーシャルディスタンスを保つなど人と人の間に新しい距離が生まれた。そんなものが生まれてしまったからこそ、ぼくは心の距離は縮めたいと考えた。そこで我が入野小学校では、挨拶運動に力を入れて取り組んでいる。挨拶はコミュニケーションの基本中の基本。僕は、企画委員長として入野小の誰もがたたくさんの制限がある中でも気持ちよく過ごしたり、仲良くなれるように僕自身も毎朝挨拶運動に参加したり、イベントを企画したりしてその推進に努めている。そういうときにも、僕は、相手の目を見てしっかりと聴くことも大切に行っている。気持ちの良い挨拶が返ってきたり、先に挨拶をしてくれたりする人が増えてとてもうれしい。

これらのことから、僕が考える心のワクチンはつまり「じっくりと人の話を聴くこと」だ。世界には、解決すべき問題が山積みである。例えば、貧困、地球温暖化、戦争など。そうした問題を解決すべく、二〇三〇年までに達成を目指す十七の目標SDGsが世界で掲げられ、取り組まれている。これまで知

らなかつた問題やその多さに驚いている。自分が何をする必要があるのか分からないほど難しい問題もある。しかし、それらもやはり、「じっくり聴く」というワクチンが効果を発揮するのではないだろうか。

